カリキュラム

機構施設名： 北海道職業能力開発促進センター
実施機関名： 合同会社瓦林総合研究室

A.生産・業務プロセスの改善 バックオフィス	DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

コースのねらい	DX（デジタルトランスフォーメーション）による企業変革の有効性を理解し、自社のDX推進に向けたポイントを習得する。

講義内容	「基本項目」	「主な内容」	訓練時間（H）
1	■ DX概論	（1）DXとは ①DXの定義 DXに携わることは地道で地味な仕事も多いが、人々の生活・仕事をよりよくして幸福にすることが目的であることを説明し、経営者にもDX推進担当者にもポジティブな仕事であることを冒頭で理解頂く。 ②ITとの違い・デジタイゼーション、デジタライゼーションとの違い 類義語との違いを説明し、DX推進にあたっては言葉の定義にとらわれずに進めることが成功のカギであることを理解頂く。 【演習】 自社または周りのDX事例について各自で整理し、グループ共有を経て、発表頂く。他社のDX事例について知っていただく。	0.2
		（2）なぜ今DX推進が必要なのか ①企業に求められる変革 経済産業省のDXレポートタイトルともなった2025年の崖について説明を行い、DXを推進する企業としない企業で何が異なってくるのかを説明し、一方で人口減少など日本をとりまく環境からもDX推進の必要性を理解いただく。 ②今こそDX推進の好機 5Gをはじめとする通信技術の進歩、AI・IoT・クラウドなどDXの導入環境が整った状況にあることを再認識して頂き、Society5.0について説明を行うことで、政府あげてのDX推進を行っており、DX推進の好機が今来ていることを理解いただく。 【演習】 一般的に人は現状を維持する傾向にあるが、変化についていけないことによる弊害をiPhone・携帯電話の利用を例に体験頂く。	0.3
		（3）DXを推進するためのデジタル技術の概要 ①AIとは AIについて説明し、得意なこと、得意でないことを説明する。 ②IoTとは IoTについて説明し、ビッグデータ利用における留意点を説明する。 ③RPAとは RPAについて説明し、得意なこと、得意でないことを説明する。 ③クラウド活用 クラウドについて説明し、活用における留意点について説明し、クラウドを積極的に使うことによるメリットを解説する。	0.5
2	■ DX導入事例	（1）DXの成功事例・DXツールの紹介 ①国内の成功事例 国内の成功事例を弊社コンサルティング事例を中心に成功ポイントおよび使われているツールとともに紹介する。 ②海外の先進事例 海外の先進事例を紹介し、DX推進にあたってのヒントを提供する。	0.5
		（2）DX成功のために重要なポイントとは 経営トップのコミット、組織風土改革、目的の明確化、事業課題の明確化、予算の明確化、DX推進人材の選定、外部協力人材やベンダー選定時のポイント、プロジェクト推進、撤退条件の明確化など、DX推進を成功させるにあたって必要なポイントを説明する。 また、DX推進を円滑にするメルためのコミュニケーション技法と、DXを長期にわたって推進していくための人材育成の考え方や内製化する範囲等について説明する。	0.7
3	■ DX戦略の導入	（1）DXの認知・理解 ①DX推進の目的 改めてDX推進の目的は企業にとって利益の増大があることを説明し、DX推進そのものが目的にならないように留意することを理解頂く。 ②ビジョンの共有・見える化 DX推進の必要性と目的を全社に周知することの重要性および具体的な発信方法について解説する。	0.5
		（2）DX推進体制の整備 ①組織化 経営企画部門に包含させる・社内独立した組織にする・IT部門に包含させるなどがあるがそれぞれのメリットなどを説明する。また、担当者を選抜する際の留意点を説明し、組織化のために必要な観点を習得頂く。 ②DX推進のための人材育成 DX推進人材に必要なものは熱意・部門横断の調整力、政治力などであり、業務を理解した実力者であることについて説明する。IT担当者がDX推進リーダーに選任された場合は、業務を理解する努力や、業務の実力者を巻き込むことが必要であることを理解頂く。 また、継続してDX人材育成を行うためのポイントを解説する。	0.5
		（3）課題抽出と業務プロセスの再設計 ①業務プロセス再設計の概要 現状確認、課題抽出と優先順位付け、業務プロセスの再設計までの流れを外観する。 ②現状認識 業務フロー図を使った現状業務の見える化を行う手順を説明する。 ③課題抽出と優先度付け 業務フロー図から、改善すべき業務を抽出するポイントを解説した上で、現状課題を列挙し、複数ある場合は優先度をつける手順を説明する。 【演習】 自社課題を列挙し、優先度付けを個人ワークで実施後、グループ内で共有頂く。 ④業務プロセスの再設計 優先度の高いものから改善案を検討・立案し、業務プロセスのあるべき姿・目標を明確にする手順について解説する。 【演習】 各自で抽出した課題の優先度の高いものについて、改善策を考え出すための手法を使い、実際に検討する。	2.3
		（4）DXの具体的な取り組み領域の決定 改善案に対しDXの適用を検討、さらにどの技術またはサービスが適しているかRFI等により情報収集を行い、RPAの適用が見込まれる業務の特徴、自社開発が適するケースなど、検討する 際のポイントを説明し、ご理解いただく。 【演習】 抽出した優先度の高い課題にはどの新技術が適用の可能性があるか検討いただく。	0.5
		合計時間	6.0

カリキュラム作成のポイント

・コース終了後に自社において各部門を交えた課題抽出から優先度設定までを主導できる状態になっていただき、DX推進のために実際に取るべきアクションをとれるようになっていただくよう、管理者層を想定したカリキュラム作成しています。
・課題に応じたデジタル技術の向き不向きを知っていただき、実効性のあるDX推進ができる能力をPMBOKの考えもちりばめながら習得頂きま

訓練に使用する機器等

●機器・ソフトウェア（受講者用）	●機器・ソフトウェア（講師用・その他）
	・PC（講師用） ・プロジェクタ ・スクリーン ・ホワイトボード ・OS：Windows10 ・アプリケーション：Microsoft Office 2016 PowerPoint、Word
●使用するテキスト	**●その他**
・オリジナルテキスト	・受講者の所属する企業の課題を整理するワークの時間をとる。 ・グループディスカッションを通し、互いの課題の情報交換する。

利用事業主に用意を求める機器等	備考
・プロジェクタ ・スクリーン ・ホワイトボード ・マーカー（赤・黒）	